



February, 2012



Afghan News

数字で見る 国民満足度

アフガニスタン国家警察の警察官数は現在14万人以上。15万5千人を2014年までの目標として、増員が進められている。警察と国民の関係について、以下のような数値がアフガニスタン法秩序信託基金の昨年の調査によって明らかになった。

- 警察に信頼と尊敬を置いている：そう思う 81%
- 地域の警察拠点が治安の向上に寄与している：そう思う 80%以上
- 警察は既に十分な機能・能力を備えている：そう思う 74%

Inside this issue:

Latest News Pg.1-3

Latest News



ルディン副外相らが訪日、日本国各要人と会談

アフガニスタン外務省ジャウェド・ルディン副大臣らが日本を訪れ、2月8日、13日、14日の各日に日本国要人との会合を行った。今回の訪日団にはルディン副外相のほか、同省経済局のアジズッラー・オマル多国間関係部長、同じく同省政治局のアシュガル・アミーリ日本・韓国関係担当官が参加した。

本年夏にはアフガニスタン復興会議が東京にて開催予定であり、当復興会議および両国関係にとって重要な意義を持つ来日であった。

期間中、訪日団はファティミ大使および

モハバド駐日使節団副代表の同行の下、玄葉光一郎外相、山本忠通アフガニスタン・パキスタン支援担当特命全権大使、松富重夫中東アフリカ局長、緒方貞子JICA理事長ら日本の各要人と会談した。ルディン副外相はそれぞれの会談において、カルザイ大統領の代理として日本に対する深い謝意を表し、日本がアフガニスタンを強力にサポートし続け、和平プロセスと開発事業における貢献、とりわけ直近に行われた支援予算の計上について高い評価を与えた。

(Continued on page 2)

また、副外相は民間レベルでの投資についても言及し、日本政府が日本の民間企業のアフガニスタンに対する投資を促すよう要求。将来的に両国の官民両界が良好な関係を結ぶことに対する強い希望を示した。

駐日アフガニスタン大使館にて、公衆衛生省代表使節とJICA各職員らを招いた懇親会が開催

2月1日、駐日アフガニスタン大使館にて、アフガン政府職員とJICA職員、そしてJICA主催の「アフガニスタン国家警察強化プログラム」の参加者を招いた懇親会が開催された。アフガニスタンからは公衆衛生省から派遣された政府職員が参席した。日本はこれまでアフガニスタン国家警察に対して、資金面でのサポートのみならず、警察職員養成に関する技術供与も含めた意欲的な援助を行ってきており、最近では、アフガニスタン内務省所属の警察最高責任者を含めた警察高官16名がJICAの協力を得て来日し、当大使館で会合を行うなど、より緊密な協力関係が形成されつつある。その会合には、花里信彦JICAアフガニスタン事務所長、ファルク・アーセフィ日本アフガニスタン協会理事、ジャファル・アフマディヤール在日アフガニスタン人会理事のほか、JICA職員各氏も参加し、幅広い議論がなされた。今回の懇親会の開会の辞においてファティミ大使は、国民のための勇士であり、自由の守り手である警察職員の来日に絡めて、アフガニスタンにおける高い警察支持率を紹介。最近の民間調査によれば警察に対して肯定的なイメージを持っている国民は全体の85%にもものぼり、そのよ

うな高い評価は高潔な志が積み上げられた結果に他ならないとして、警察関連分野の諸活動を高く評価した。

また、2月14日には、JICAによる医療教育訓練プログラム参加者への表敬を目的とする懇親の場が、やはり当大使館にて設けられた。

懇親の席にて、ファティミ大使は、元公衆衛生省大臣としての経験を踏まえた上で、日本の官民両界からアフガニスタンの医療衛生分野に対してなされているたゆまぬ支援に対し、非常に重要なものとしての評価を与え、一連の継続的な支援に対し、アフガニスタン政府と国民を代表して深謝の意を示した。同時に大使は、参席者に対して、アフガニスタン国内の医師を支援してきた経験をこれからも生かして、これまでの達成をベースに更なる活躍を続けてほしいと激励の言葉を述べた。JICAの代表として会に参加した大西氏は、大使の言葉に呼応する私たちで、同分野におけるJICAの支援準備は既に整っているとし、将来的な協働関係の継続を約束した。

産婦人科領域に更なる発展の兆し

アフガニスタン公衆衛生省と国連人口基金は、2012年度のリプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）増進計画を取り決め、達成に向け努力することで合意した。

当計画は、公衆衛生省の看護・助産関係部署、地方行政の公衆衛生部門の機能増強を図るとともに、助産師教育および産科医療の質を高めるこ

とを主眼としており、アフガニスタン助産師協会やアフガニスタン産婦人科学会へのサポートも行っていく予定。その他、現在医療サービスの行き届いていないエリアにおける産科医療の充実なども活動内容に盛り込まれている。

カブールの歴史的建築物改修に向け新たな取り組み

カブール市のムハンマド・ユヌス・ナワンディッシュ市長によると、地域主導の文化財復元計画の一環として、カブール市内のダール・アルアマー、チェハル・セトン、タージ・バイグの3城跡の再建改修計画が目下検討中であるとのこと。ダール・アルアマー城とタージ・バイグ城は、アマヌッラー・ハーン王の治世（1919-1929年）に建築された。ダール・アルアマー城は1970年代後半から90年代にかけて、激しい破壊活動にさらされ、特に修繕がなされないまま現在にいたっている。また、チェハル・セトン城は1810年に終わりを告げたザマン・サドザイ王の治世下に建造されたものである。

風力発電による試験給電開始

米国国際開発庁の援助の下、アフガニスタン国内のエネルギー自給率の更なる向上を目的とした風力発電事業が試験的に開始された。

バルフ州、ヘラート州のインジル地区並びにザンダジャン地区、カブール、パルワーン州から計6ヶ



所が発電試験地として選ばれ、今後一年間にわたり試験が行われる予定である。

試験の結果を踏まえて、改めて発電用地選定が行われたのち、本格的な運用が開始される見込み。

ロンドン五輪にむけてアフガンナショナルチーム始動

今夏のロンドン五輪にむけてアフガニスタンナショナルチームが本格的な活動を開始した。アフガニスタンは2004年のアテネ五輪で初めての女性競技者を出場させ、2008年の北京五輪で初のメダル獲得を達成している。ロンドン五輪に出場予定の注目選手は以下の通り。

女子ボクシングに出場する現役女子学生のサダフ・ラヒミ(17)。54キログラム級の選手として五輪デビューを果たす彼女は、4年前にボクシングを始め、既にタジキスタンのボクシング大会で銀メダルを獲得している。

アフガニスタンに初めてのオリンピックメダルを持ちかえったテコンドー選手のロフラ・ニクパイ(24)。2008年北京五輪で銅メダルを獲得した彼は、今大会での金メダル獲得へ強い意気込みを見せた。

同じく2008年北京五輪に100メートル短距離走で出場したマスード・アジージー(25)。彼は北京五輪の翌年、2009年の国際陸上競技連盟



(IAAF)ベルリン世界大会にも出場している。

2008年北京の銀メダリストである柔道のハビーバ・バヤットは、アフガニスタン柔道チームで唯一の女性選手。本年のオリンピック対策として日本で半年のトレーニングも行った。アフガニスタンの柔

道チームは2001年の世界柔道選手権で複数の賞を獲得しており、今五輪でも活躍が期待されている。

106-0041 東京都港区麻布台2-2-1
在日本国アフガニスタン大使館

電話・ファックス
 Tel: 03-5574-7611
 Fax: 03-5574-0195

ウェブサイト

www.afghanembassyjp.org



Contact Us

当大使館のニュースレターに関するご意見、ご質問等ございましたら、大使館広報部 Jason Pratt宛に電子メールにてご連絡下さい。

pratt@afghanembassyjp.org